

## 地球温暖化対策計画書

## 1 指定地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

## (2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		NTTコミュニケーションズ 唐ヶ崎ビル								
事業所の所在地		東京都目黒区中央町一丁目11番7号								
業種等	事業の種類	分類番号	G37	G_情報通信業				通信業		
		産業分類名	通信業							
		主たる用途	情報通信							
	事業所の種類	建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)			前年度末	32,284.17	m <sup>2</sup>	基準年度	32,284.17	m <sup>2</sup>
		用途別内訳	事務所	前年度末	8,550.68	m <sup>2</sup>	基準年度	8,550.68	m <sup>2</sup>	
			情報通信	前年度末	23,733.49	m <sup>2</sup>	基準年度	23,733.49	m <sup>2</sup>	
			放送局	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			商業	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			宿泊	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			教育	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			医療	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			文化	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			物流	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			駐車場	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
工場その他上記以外	前年度末			m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>			
事業の概要		事業内容：長距離電気通信業 ・昭和45年2月竣工 ・地上9階、地下3階、100人が就業								
敷地面積		11,281.28							m <sup>2</sup>	



(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	総務部 CSR・環境保護推進室
	電 話 番 号 等	03-6700-4225
公表の 担当部署	名 称	総務部 CSR・環境保護推進室
	電 話 番 号 等	03-6700-4225

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス：	<a href="http://www.ntt.com/about-us/csr/en_report.html">http://www.ntt.com/about-us/csr/en_report.html</a>
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：	
		所在地：	
		閲覧可能時間	
	冊 子	冊子名：	
		入手方法：	
そ の 他	アドレス：		

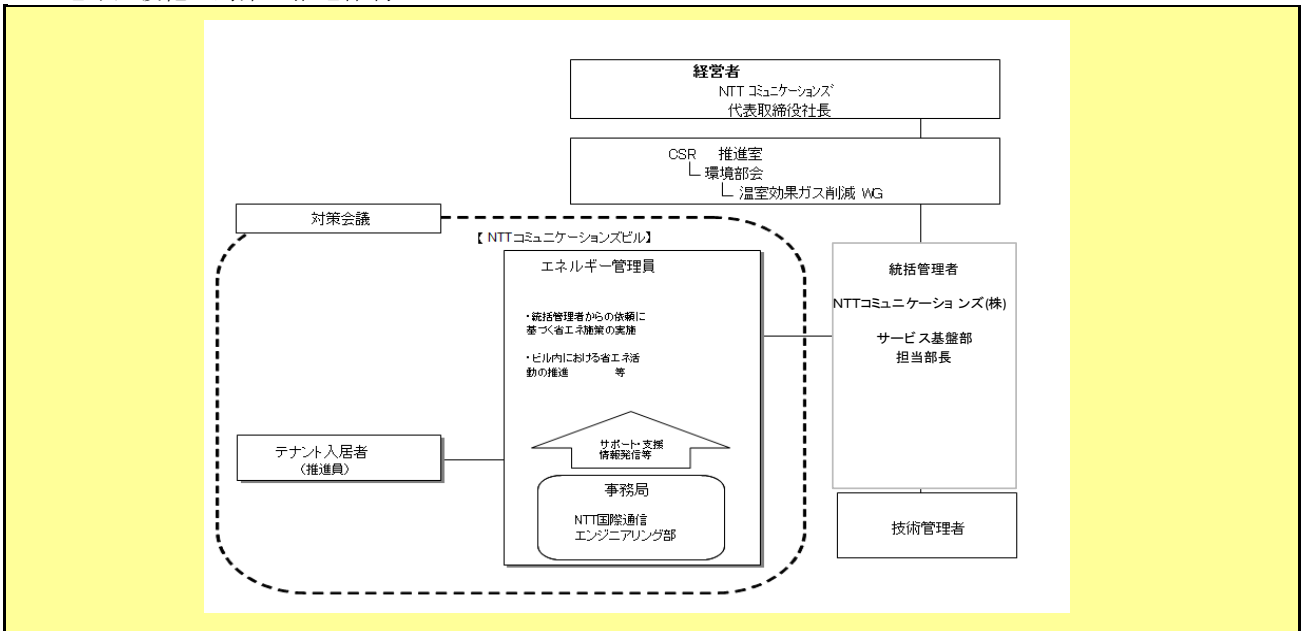
(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1970	年	2	月		日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

NTTコミュニケーションズ地球環境憲章  
 ◎基本理念:NTTコミュニケーションズグループは、グローバルな規模であらゆるお客さまの利益につながる最高水準のサービスを創造し、提供するすべての過程において、地球環境保全に積極的に取り組むとともに、環境にやさしい社会の実現に貢献します。  
 ◎基本方針：①企業責任の遂行② 環境にやさしい社会実現に向けた活動の支援 ③社会活動を通しての貢献 ④ 環境情報の公開 ⑤ 生物多様性の保全と持続可能な利用（生態系の保全と持続可能な利用）  
 詳細は、<https://www.ntt.com/about-us/csr/eco.html#ecoLink01>参照

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015年度から	2019年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	指定地球温暖化対策事業所の削減義務率が17%(2016年度対象：緩和4%)であることを考慮し、下記の施策の実施により削減義務の達成を目指す ・省エネ機器の導入 ・電源設備の更改、統廃合 ・空調機更改、照明改善の実施			
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス				
削減義務の概要	基準排出量	18,393	t(二酸化炭素換算)/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量(削減義務期間合計)	78,760	t(二酸化炭素換算)	平均削減義務率	13%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020年度から	2024年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	削減義務の達成に向けて、第一計画期間の施策の継続に加えて、省エネ効果の高い技術の導入を拡大する			
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス				

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO <sub>2</sub> )	13,567	11,971	12,445		
その他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )				
	メタン (CH <sub>4</sub> )				
	一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)				
	ハイドロフルオロカーボン (HFC)				
	パーフルオロカーボン (PFC)				
	六ふっ化いおう (SF <sub>6</sub> )				
	三ふっ化窒素 (NF <sub>3</sub> )				
	上水・下水	2	2	2	
合計	13,569	11,973	12,447		

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/m<sup>2</sup>・年

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	420.2	370.8	385.5		

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（2002、2003、2004年度）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
変更年度			○	○		

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2015年度から	2019年度まで
----------	----------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	18,008	18,663	18,393	17,732	17,732	90,528
	削減義務率 (B)	13.00%	13.00%	13.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)	/					78,760
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						11,768
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	13,567	11,971	12,445			37,983
	排出削減量 (F = A - E)	4,441	6,692	5,948			17,081

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input checked="" type="checkbox"/> 設備の増減	<input type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	空調の適正管理や不要照明の節電など、施策の運用を引き続き実施したが、ハウジングルーム設備増加に伴う電流増や、設備の老朽化等による効率低下などにより増加という結果になった。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
	【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】				
1	110200	11_主要設備等の保全管理	余剰空調設備の撤去・休止	2008年度実施	
2	110200	11_主要設備等の保全管理	老朽化通信機室用空調機（FMACSⅢ等）の更改	2010・2011年度実施	
3	130100	13_空気調和の管理	FMACS空調機運転の最適化	2011年度より実施	
4	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調自動制御システム（SmartDASH）の導入	2012年度より実施	
5	130300	13_換気設備の運転管理	外気導入量の適正管理	2006年度実施	
6	130100	13_空気調和の管理	省エネファンベルトへの更新	2006年度実施	
7	130200	13_空気調和設備の効率管理	スーパーコンデンサの導入	2006年度実施	
8	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明への更改	2010年度実施	
9	310200	31_主要設備等の保全管理	省エネ機器の導入	2009年度より実施	
10	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調装置のフィルタ洗浄（吸気フィルタ等）	2010年度実施	
11	130200	13_空気調和設備の効率管理	屋外機の洗浄	2010年度	
12	110200	11_主要設備等の保全管理	非効率整流装置の更改	2010・2011年度実施	
13	130100	13_空気調和の管理	空調機の設定温度の緩和	2014-2016年度	
14					
15					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
	【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】				
51					
52					
53					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
61					
62					
63					

## 8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

### 【NTTコミュニケーションズ】

推進体制について、統括マネージャーをトップにてテナント各社の協力のもと、計画書に記載した体制が構築できている。また、省エネ推進委員会を開催し、都及び国へ提出した報告書に基づき、対策の進捗状況を報告するとともに、課題等についても検討しています。

#### 「NTTコミュニケーションズ 環境への取り組みトピックス」

私たちは、「NTT Comグループ の環境宣言及び環境目標2030」に基づき地球温暖化対策に取り組んでいます。次の点を重視して地球温暖化対策に取り組んでいます。

#### ●通信・DCビルにおける空調電力削減

私たちは、空調電力を20%以上削減する目標を掲げ、次の取り組みを実施。

- ・サーバールームの温度を見える化し、冷やし過ぎ箇所を検知し、自動的に「温度制御」を実施するSmartDASHの導入
- ・ラック列の間の通路をビニール注材の壁や屋根で覆い、IT装置へ吸気（低温）と排気（高温）を物理的に分離し効率的な空調環境を実現するアイルキャッピングの導入
- ・サーバラックの未使用スペースのフロント部を塞ぐ「ブランクパネル」の設置
- ・ICT装置から排出される温かい排気の流れを統一化、床下から吹き出す冷気の調整を行うなど気流改善を実施

#### ●再生可能エネルギーを積極活用する太陽光発電システムの導入

2009年より、東京都内の通信ビルやデータセンタービルにおいて太陽光発電システムによる発電に取り組んでいます。現在4基のシステムが稼働中で、2017年度は、約35.3万kWhを発電しました。発電した電力は建物共用部の照明に使用しています。

#### ●オフィスビルの節電

PCの省エネモード設定、照明やエレベータの間引き運転、冬季、夏季の空調温度の設定など年間を通じた節電対策を実施

#### ●社員教育

全従業員を対象に、CSR・環境研修を実施。